



町のわだかまり

今月の題字 五十嵐 なつみさん（船越小4年）



「人づくり町づくり町民のつどい」に280人 天津・木村さんが本県の魅力を熱弁

2月26日、町教委主催の「人づくり町づくり町民のつどい」が町中央公民館大ホールで開かれ、町観光ふるさと大使の天津・木村（木村卓寛^{たくひろ}）さんが演題に立ち岩手の魅力を熱弁しました。2年前から県内で家族と暮らす木村さんは「おいしい食べ物や美しい自然、素敵な県民性に驚きました」と移住を決めたときのエピソードなどを紹介した上で、「皆さんは当たり前前の素晴らしさに気づき、もっとアピールすべきです」と強調。最後に「岩手の人は玄関を第2の冷蔵庫だと思ってる一あると思います」と詩吟ネタを披露し、聴衆280人の笑いを誘っていました。

東日本大震災から12年 献花台で犠牲者の冥福祈る

東日本大震災から12年目を迎えた3月11日、犠牲者を追悼するための献花台が町中央公民館大ホールに設けられました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐため、昨年に引き続き自由献花が行われ、午後2時の開始から遺族など270人が来場し、献花台に花を手向けると静かに手を合わせました。震災が発災した午後2時46分には御蔵山復興祈念公園で、佐藤信逸町長ら町幹部職員や地域住民などが海に向かって、1分間のサイレンに合わせて黙とう。犠牲者の冥福を祈りながら震災の経験を後世に伝承していくことを決意しました。



山田高1年生の「津波碑ガイドマップ」 震災伝承への思い受け継ぎ完成

2月24日、山田高校(晴山^{しやん} 俊校長・生徒77人)の1年生19人は、同校の「ふるさと探究」授業の学習成果発表会で町と協働で作成した「津波碑ガイドマップ」の完成報告を行いました。同マップは、令和4年1月に開かれた「高校生議会」で当時の3年生から提言されたもので、本年度に町教育委員会が事業化したものです。災害の歴史と教訓を後世に伝えようと卒業生の思いを受け継いだ生徒たち。この日は、災害の歴史や石碑の意味を学びながら情報収集に取り組んできた様子をスライドで紹介しました。今後町では、同マップを幅広く活用していきます。

